

くまもと ひろし
言語学教授 熊本 裕

(KUMAMOTO Hiroshi)

email: hkum@gengo.l.u-tokyo.ac.jp

<http://www.gengo.l.u-tokyo.ac.jp/~hkum>

1948年 生

I. 略歴

- 1974年3月 東京大学文学部言語学専修課程卒業 (文学士)
- 1974年4月 同 大学院人文科学研究科言語学専攻修士課程入学
- 1976年3月 同 修了 (文学修士)
- 1976年4月 東京大学大学院人文科学研究科言語学専攻博士課程入学辞退
- 1976年4月 東京大学文学部助手 (言語学研究室)
- 1976年8月 同 休職 (海外研究のため) ~ 79年8月 (休職期限につき退職)
- 1976年9月 米国ペンシルヴェニア大学大学院東洋学科博士課程入学
- 1982年12月 同 修了 (哲学博士)
- 1983年4月 四天王寺国際仏教大学文学部助教授 ~ 89年3月
- 1989年4月 東京大学文学部助教授 (言語学)
- 1994年6月 同 教授
- 1995年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授 (言語学)

II. 研究活動 (1999年11月~2002年3月)

a. 専門分野

インド・ヨーロッパ語(印欧語)比較言語学、特にインド・イラン語派を研究の中心にしている。とりわけイラン諸語の歴史言語学的研究が専門である。中央アジアの遺跡(いわゆるシルクロード)から発掘されて、20世紀に初めて解読された言語の一つであるコータン・サカ語の研究に従事し、過去十数年、世界各地の博物館や研究所に保存された写本を調査し、そのうちのいくつかは初めて解読し出版した。90年代は主としてペレストロイカ以降ようやく外部に解放されたロシア所蔵の写本を対象に、現地の研究者と共同研究してきたが、それもほぼ一段落した。

b. 研究課題

ロシア所蔵の写本の出版によって、現存するコータン・サカ語文献の全体像がようやく明らかになったといえる。すなわち、今の段階で欠けている、この言語の総合的な文法と辞書のための作業の土台が、ようやく整いつつある。この作業と平行して、かつて断続的に出版した、パリのフランス国立図書館所蔵のコータン・サカ語文書(Paul Pelliot 蒐集)の研究を改訂して、*Saka Documents Text Volume II* という題名の書物として出版する予定である。

c. 主要業績

1. “Textual Sources for Buddhism in Khotan”, John R. Mcrae and Jan Nattier ed., *Collection of Essays 1993. Buddhism across Boundaries - Chinese Buddhism and the Western Regions*, Taipei, Fo Guang Shan Foundation for Buddhist & Culture Education, 2000, 345-360. [2000]
2. “Gaysāta”, *Encyclopaedia Iranica*, Vol. 10, Fasc. 4, Eisenbrauns Inc., Winona Lake, IN., 347 [2000].
3. “The Concluding Verses of a Lyrical Poem in Khotanese”, *Harānandalaharī. Volume in Honour of Professor Minoru Hara on his Seventies Birthday*, ed. by Tsuchida Ryutaro and Albrecht Wezler, Dr. Inge Wezler. Verlag für Orientalische Fachpublikationen, Reinbek 2000, 143-154 [2001]
4. “Sino-Hvatanica Petersburgensia, Part 1”, *Manuscripta Orientalia*, Vol. 7, Part 1, 2001, 1-5 [2001]
5. 「アヴェスタ文字」, 『言語学大辞典・別巻・世界文字辞典』三省堂, 1-5, [2001]
6. 「パフラヴィ文字」, 『言語学大辞典・別巻・世界文字辞典』三省堂, 749-751 [2001]
7. 「ブラーフミー文字」, 『言語学大辞典・別巻・世界文字辞典』三省堂, 851-875 (共著・熊本執筆部分 851-852, 861-875) [2001]
8. 「東洋文庫所蔵 St. Petersburg コータン・サカ語写本マイクロフィルム暫定目録」, 『東京大学言語学論集』 20, 2001, 301-345 [2001]

9. (西域出土諸国語断簡) 『東京大学所蔵仏教関係貴重書展 - 展示資料目録 - 』
東京大学附属図書館, p. 7 [2001]

10. [印刷中] “Review of Proceedings of the Third International Conference
of Iranian Studies, Part 1: Old and Middle Iranian Studies (Wiesbaden 1998)”.
Bulletin of the Asia Institute Vol. 13 [2002 予定].

III. 主な教育活動

a. 講義・演習題目

[2000 年度]

比較言語学 I, II (学部) L. Campbell, *Historical Linguistics. An Introduction* による。

印欧語比較研究 (演習)(共通) 「Avesta 語入門」

イラン語文献学概説 (講義)(共通) 「バクトリア語碑文・文書購読」

言語学演習 (大学院) 全教官による学生の研究発表の指導

博士論文指導

[2001 年度]

言語学概論 (学部)

比較言語学 I, II (学部) R. L. Trask, *Historical Linguistics* による。

印欧語比較研究 (演習)(共通) 「印欧語名詞曲用の起源」

イラン語文献学概説 (講義)(共通) 「コータン・サカ語文書購読」

言語学演習 (大学院) 全教官による学生の研究発表の指導

博士論文指導

b. その他

博士論文審査 3 件

修士論文・卒業論文は教官全員で審査にあっている。

c. 主要学内行政

人文社会系研究科入試実施委員会副委員長 [2000-2001]。

人文社会系研究科委員会代理委員 [2000-2001]。

d. 学会等の活動

日本語学会

日本オリエント学会

東方学会

Societas Iranologica Europaea

L'Association pour l'Avancement des Etudes Iraniennes

IV. 主な社会活動

特になし。